

特集 「編集委員今年の抱負 2013」

アルゴリズム, プログラム, サービス



濱崎 雅弘 産業技術総合研究所

昨年度の人工知能学会全国大会で優秀発表賞をいただきました。こちらの賞をいただくのはこれで2度目で、前は2004年度の全国大会にていただきました。2004年度に受賞した発表は、今でいうところのSNS（ソーシャルネットワーキングサービス）を自作して学会参加者を対象に運用し分析したというものでした。運用させていただいた学会というのは人工知能学会全国大会でして、研究開発したシステムはかれこれ2003年から2007年の5年間にわたって運用させていただきました。学会誌の読者の方にも使ったことがある方もいらっしゃるかと思います。その節はどうもありがとうございました。そんなこんなで実験から発表、さらには表彰までしていただき人工知能学会にはずいぶんお世話になった研究です。

今では一般的になったSNSですが、研究を始めた当時はまだ普及しておらず、どうやってソーシャルネットワークを使える状態にするのかという問題がありました。当時はまだ学生だったので、それまではシミュレーションや少数の被験者実験でお茶を濁していたところ、ちょうど全国大会のWebサイト作成のアルバイトをすることになり、ここならたくさんの人が使うだろうからと、学会のオンラインプログラム兼SNSをつくりました。これを2003年の全国大会で運用して、その結果を2004年の全国大会で発表したので、ちょうど10年前です。よくよく考えれば職権乱用な気もしますが、すでに時効ということでご勘弁を。

余談ですが、今の全国大会で使われているオンラインプログラム（HTML版）はそのときの名残です。いまどき検索フォームを用意していないオンラインプログラムなんてあり得ないのですが（あれは一覧ページでCtrl+Fで検索しろ、という仕様なんです）、不満はあれども修正する手間のほうが大きいらしく生き延びているみたいです。学会のWebサイトもリニューアルしたことですし、10年経ったということで、全国大会のオンラインプログラムのほうもリニューアルしていただければと切に願います。

閑話休題。そんなこんなで研究のためにWebサイトをつかって学会参加者数百人を巻き込んでサービスを運用しました。もちろん私一人でやったわけではなく、産総研の西村さんはじめ多くのメンバと一緒にやったプロジェクトでした[西村 04]。このサービスは複数年運用したのですが、サービスが動いている＝そこにユーザがいる、ということで、そのユーザデータを使って研究したいほかの研究者の方も参加して、最終的にはずいぶんにぎやかなプロジェクトになりました[武田 07]。現在の情報技

術には、アルゴリズムやプログラムだけでは完結せず、サービスになって初めて実装（外在化）ができたといえるものも少なくありません。さらには、あるサービスの上で初めて成立するようなものも数多くあります。つまりサービスが一種の実験設備になっているといえます。あのプロジェクトは、学会参加者という新しいものを試すにはうってつけのユーザを抱えたサービス＝実験設備をもっていたので、たくさんの研究者が集まりました。

eコマースなどの大量データを収集できるサービスは魅力的な巨大実験設備といえます。しかし大きいだけが優れた実験設備というわけではないでしょう。商用サービスはすでに人々の日常に取り込まれています。日常を解析し近い将来を類推するには良いですが、未来の日常、刺激的な非日常を創造するためには、もっとへんてこな実験設備（サービス）も必要となってくるでしょう。それは必然的に既存のものを利用するだけでなく、自前でつくっていく必要があります。数学とプログラミングがこれまでの情報系研究者の基礎能力だったわけですが、今後はこれにサービス開発・運用能力が追加されるでしょう。アルゴリズム、プログラムに加えてサービスが情報系研究者の武器となるわけです。

話を一番最初に戻すと、昨年度、全国大会で受賞した研究発表の内容はリンクドデータを皆でつくるためのサービスの提案でした。こちらはまだプロトタイプの段階で、公開サービスを動かすのはこれからです。昨年中に立ち上げるつもりでしたが、うまく進まず年を越してしまいました。実はほかにも昨年立ち上げられなかったサービスや、立ち上げたけれどまだまだこれからというサービスもあります。サービスは大事だと言いましたが、大変なものも事実で、サービスにしなければ楽なものと思いうところもあります。特にユーザデータを含むものは個人情報保護法や著作権法、プライバシー問題への配慮も必要です。しかしせっかく手に入れた新しい武器を使わないわけにはいきません。若造の新年の抱負なのになんだか昔話とぼやきが中心になってしまいましたが、今年はリンクドデータサービスの立上げと成功を目標に頑張りたいと思います。今年もよろしく願います。

参考文献

- [西村 04] 西村拓一ほか：2003年度人工知能学会全国大会支援統合システム、人工知能学会学会誌, Vol. 19, No. 1, pp. 43-51 (2004)
[武田 07] 武田英明ほか：イベント空間情報支援システムの展開について、人工知能学会全国大会論文集, 1B2-10 (2007)